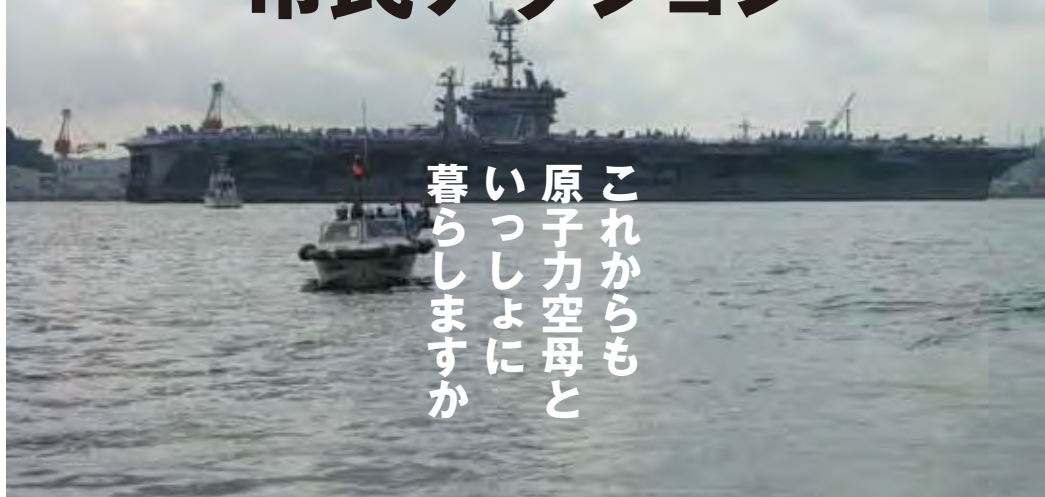


どうする? 「レーガン」

原子力空母の交代を問う 市民アクション



これからも
原子力空母と
いっしょに
暮らしますか

原子力空母母港化の是非を問う住民投票を成功させる会

〒238-0008 神奈川県横須賀市大滝町1-26 清水ビル3階
横須賀市民法律事務所方
電話:046-827-2713 FAX:046-827-2731

原子力空母 配備問い直す



空母の問題点を訴える呉東正彦弁護士（左）＝横須賀市

米海軍横須賀基地に配備される原子力空母の交代を前に、その是非を改めて考えてもらおうという「市民アクションプロジェクト」が動き出す。原発事故で原子力を取り巻く環境が変わったことも踏まえて議論を深めるのが狙い。市民団体が中心となってリーフレットの全戸配布や地域集会などを進める方針で、2月1日に具体的な計画などを話し合う集会を開く。

横須賀基地に2008年 夏、ロナルド・レーガンに交代に配備された原子力空母ジョージ・ワシントンは今

横須賀の市民団体 市民アンケート実施へ

「原発再稼働に匹敵する問題」



横須賀港に停泊する米原子力空母ジョージ・ワシントン（手前）。周辺には市街地が広がる＝昨年8月、横須賀市、本社へリから

求める直接請求が出された
り、市も10カ所で説明会を開いたりして市民の関心も高まった。

今回、市は「（後継が）同型艦」（吉田雄人市長）として説明会は見送る考え。こうしたこともあり、市民団体では5月以降、リーフレットの全戸配布や市内5カ所での意見交換会を進めて市民の関心を高めたいとしている。配備の是非を問う市民アンケートも計画、結果はオバマ大統領や安倍首相らに届けるといふ。1日の集会では空母交代の現状について情報共有を進めたうえで、今後の進め方を話し合う。

市民団体の共同代表、呉東正彦弁護士は「空母交代は原発再稼働に匹敵する問題。今後10年、15年と空母の母港化を継続させる新たな提案になる。あたかも既成事実のように交代が進められる、市民の声が聞かれないのはおかしい」と訴える。メンバーの新倉泰雄さんは「福島原発事故後、空母を取り巻く環境は大きく変わった」とし、直接、横須賀市民に説明するよう米海軍に求めたいと話す。

1日のキックオフ集会は午後2時半から、同市本町の産業交流プラザで。問い合わせは「原子力空母母港化の是非を問う住民投票を成功させる会」事務局（046-827-2713）へ。（前田基行）

2015年夏、

原子力空母ジョージ・ワシントンが米国に帰ります。
しかしそれと交代に、

次の原子力空母レーガンを

横須賀に配備するとの発表がありました。

ジョージ・ワシントンからレーガンへのバトンタッチは、

単なる原子力空母の交代ではありません。

福島原発事故を受けて、

原発ゼロが大きな争点となっている日本で、

横須賀がその例外として、

原子力空母の原子炉が稼働し続けるという

新たな提案なのです。

黙っていたら、

この町はこの先ずっと、

原子力艦におびえながら暮らす町になってしまいます。

今こそ、その是非について、

私達市民の意思が問われねばなりません。



私たちは過去2回、原子力空母の是非を問う、
住民投票条例の直接請求を行ってきました。^{注1}
住民投票の直接請求に
かわるものとしての、^{注2}
「原子力空母交代を問う
市民アクション」です。

2.1 Kick off!

注1●直接請求による「住民投票条例案」は2度とも市議会で否決。
注2●3度目の直接請求を「しない」と決定したわけではありません。

「原子力空母の交代を問う市民アクション」の3本柱

1 原子力空母交代問題を市民に知らせる
リーフの市内全戸配付

2 市内5地区で、原子力空母の安全性、防災問題の
出前説明会と意見交換会の開催

3 原子力空母交代の是非を問う
10,000人市民アンケート

1 まず、最初に

原子力空母に関する リーフレットの全戸配布



3カラー、三つ折り。125,000部印刷予定

重点項目

- 原子力空母は安全か↓基本をしっかりと
- 原発事故と原子力空母↓その同質性
- 空母交代の意味↓恒久化

市内5ヶ所の地域集会のお知らせとアンケートのお願いも掲載

配布に工夫を

- 配付の基本は、業者によるポスティング
- 可能な地域は、手分けして個別配布
- インターネット等による拡散も

課題はここ

- リーフレットの印刷代、配布代で約150万円
- どう集めるのか、みんなの知恵が必要
- 資金集めプロジェクト立ち上げ

2 市内5地区で市民集会

原子力空母の安全性に
関する意見交換会と
防災対策の出前説明会



開催地域は、必要に応じて増やすこともあります。

最終回は、中央周辺で
ゲスト等をお呼びなどとして、
大規模に市民集会。
米海軍関係者にも、
説明会出席をお呼びかける。

実施期間

- 5月から8月にかけて、3〜4週間置きに
- あるいは、もっと集中して実施か

作り方

- 各地域の責任者、スタッフを決める
- 日程、会場を決める
- 各地域50名以上の参加をめざす
- 全戸配付リーフの配布を追求
- 駅頭での宣伝アンケート実施計画
- 独自企画についても検討

内容

- 「市民アクション」の趣旨説明
- 原子力空母関係ビデオ上映
- 原子力空母交代の問題点
- 市担当者から、原子力艦事故防災対策について
- 地区独自の企画
- 質問と意見交換タイム
- アンケートその他への協力要請

3 10,000人 市民アンケート



直接請求に匹敵する
迫力を作り出せるかどうか。
10,000人の意味が
ここにある。

でも
1万人
可能か

要検討

拡大事務局会議での意見

- アンケートとしての厳密さを確保したい
- 公平さにはあまりこだわらなくてもいい
- 知らせることが大事、
取り方はいろいろあっていい

実施の ために

- アンケートチームの立ち上げ
- アンケート内容
- アンケートの取り方
- アンケートの実施と集計

- 1) 上記意見交換会参加者(必ず)
- 2) 全戸配付リーフ(郵送・ファックス・メール等)
及びインターネットでの意見募集
(専用メアドやホームページを。)
- 3) 足りない分を街頭等で補充してとる。
- 4) 受任者のように、1人5名ノルマのアンケート呼びかけ人を募る。
- 5) 諸団体への要請。(内容の秘密性の配慮。)
- 6) 市外の人はどうするか?

「市民アクション」を 成功させるために



日程 (事務局案)

- 2月1日キックオフ集会。
- 3月 趣意書と、カンパ呼びかけ用紙完成
- 4月 地域の会日程場所、アンケート確定
- 5月 リーフレット完成。
- 5～8月5地区で意見交換会・市民アンケート集め
(並行して、アンケート集約・集計作業)
- 8月 中央地区での大集会・シンポジウム
- 8月 アンケート集約結果を各方面に提出

この町の「明日」を
決めるのは、
私たち市民です。

必要なチーム

- 資金調達チーム
- 全国宣伝チーム
- 全戸リーフ編集チーム
- 全戸配付統括チーム
- 宣伝拡散チーム
- アンケート統括チーム
- 地域集会統括チーム

原子力空母レーガンの被曝問題

原子力空母レーガンは、東日本大震災のトモダチ作戦で福島原発事故直後の重大な放射能被曝を受け、多数の乗組員が被曝して重大な病気になり、現在2名が癌で死亡し、239名が東京電力他を相手取って米国で裁判を起こしています。現在の放射能レベルは大丈夫なのでしょうか。米海軍は今こそ、横須賀市民にレーガンの被曝の実態と、現在の放射能レベル等を明らかにすべきです。